

令和5年2月18日  
北関東フォーラム  
於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム 令和5年度 第2回

おはようございます。開会挨拶で塚越参事から大変元氣の良い後期高齢者の話がありました。塚越参事はいつ聞いても良いお話をされます。後期高齢者認知機能検査は私も体験しまして、免許証の更新を致しました。塚越参事も言われたように、高齢者が事故を起こすという印象が刷り込まれているのは、やはりメディアの誘導する方向がそうだからだと捉えています。

### 道

では、本日の論語に参ります。テーマの「道」について、レジュメに8つ挙げました。

「道」とは、人としての道、人として身につけねばならないものとお考え下さい。では、素読を致します。

(素読)・・・素読を落ち着いて読むと、何となく清々しくなりますね。

解説を致しますが、論語はその人の心の持ち方によって受け止め方も変わります。ですから私の解説を聞いてピンと来ないと思ったら、どうぞ質問して下さい。

①子曰く、朝しいわに道あした みち きを聞きかば、夕ゆうべに死しすとも可かなり。(里仁第四・8)

「朝」と「夕」とあります。朝夕とは、大変短い時間を意味します。「道を聞く」とは、自分なりにはっと閃く、心の中にしっかり入り込む、悟るということです。

これはかなり有名な科白です。渋澤栄一は、「明治維新の志士たちは、この言葉を金科玉条として、この章句に動かされて行動した」と言っています。ご存知の通り、渋澤栄一は24歳の時、今で言うテロを計画しました。栄一の言葉で言えば、「紅毛夷狄の輩が日本の国を侵しつつある。我々は一命を投げうって、世の中を正しい方向に導いていこうではないか!」と考えていたわけです。従妹の渋澤喜作や尾高惇忠らと一緒に高崎城を乗っ取り、その勢いを駆って鎌倉街道を驀進しながら義勇兵を募り横浜の外国人居留地を焼打ちし、毛唐どもを皆殺しにする・・・という計画を立てて、寸前でストップをかけられました。

安倍元首相を銃殺した人間は、どこまでそういう考え方を持っていたかは分かりませんが、渋沢栄一が思ったように、これは正義であると信じて実行したのではないかと推測しました。

私が若い頃、有楽町にいつも右翼の赤尾敏が立って演説をしていました。赤尾敏は右翼の支柱といわれた人物です。その演説を聞いて、素晴らしいと言いながら活動に入っていく者もいたようです。右翼の理論的支柱と言われた人を叔父に持つJ Cの知人がおりました、一度会って見ないかと言われ、お会いした事があります。その方の話では、「我々右翼は一刃一殺の命をもって国賊を刺し殺す。この正義を貫いた後は、靖国神社に祀られないことをもって命とする」とのことでした。その頃の右翼は、正義だと信じたら直ぐ行動したのです。現実には社会党の浅沼委員長が演説会場の壇上で話をしている時、右翼の若者が短刀を持って突進し、浅沼委員長を刺し殺すという事件がありました。

これは大変なことだと思うけれども、ちょっと視点を変えてみると、韓国で日本の総理大臣伊藤博文が暗殺されましたが、その暗殺犯は韓国では英雄と言われます。国が違うと評価の仕方も変わるし、時代が変わると評価もまた変わるということです。

井伊大老を暗殺した藩士は、それが正義だと信じて実行したわけですし、「朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり」の教えを具現するものだと褒め称えられたわけです。西郷隆盛は井伊大老の暗殺を聞いた時とても喜び、木刀をもって家から飛び出し暴れたと云います。それほど井伊大老の暗殺事件は、世の中の特に攘夷の志士たちから見ると受け入れられたのです。

言葉というものは人を動かします。書いた文字（もんじ）も、人を動かします。これは凄い！ と思い込んだなら、人は行動に移ります。

学問には座学で学ぶ朱子学と、行動の中で悟る陽明学があると申し上げています。以前、フォーラムの会員さんから「明治維新は陽明学が大きな影響を与えたのではないか」という質問を戴きました。私は、その通りであると答えました。『陽明学のすすめ』を10冊書き終えたら、「明治維新は陽明学を信ずる者たちによって行われた」という説を強烈に打ち出すつもりでおります。

ですから明治維新の頃の <一命を投げ打って世の中を良くしたい>と信じて行動する人たちは、陽明学という学問、そこから生まれた「朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり」という言葉を信じて実行していったとご理解下さい。

しいわ し みち ころざ あくいあくしょく は もの いま とも はか た  
②子曰く、士道に志して悪衣悪食を恥ずる者は、未だ与に議るに足らざるなり。

(里仁第四・9)

人物たる者は、人間としての志を実行しようと思う。同じ道を信じて進んでいく者同士共に議論を深めようではないかと思うが、粗衣粗食を恥ずかしく思うような人間は、語り合う仲間ではない。

孔子が一番弟子と認めた顔回は粗衣粗食を日々実行していたので、ここは顔回を頭に浮かべていると思います。また、子路は人を威嚇するようなものを着込み、人が避けて通るような恰好をしていましたから、子路も孔子の頭に浮かんだのだらうと思います。

③子曰く、道行しいわわれみちおこなずんば、桴いかだにの乗りて海うみにうか浮わればん。我したがにもの従そわん者は、其ゆれ由かか  
と。子路しろ之これをき聞よるこきて喜しいわぶ。子曰く、由ゆうや勇ゆうを好このむこと我われに過すぎたり。取とり材はかる所ところ無なか  
らんと。(公冶長第五・6)

孔子が言いました。「自分が理想とすることが世の中に受け入れられない。そうであれば、小さな筏に乗って海に出て他の国に行き、自分の理想を行いたいものだ。その時、私について来るのは、この中で子路くらいだろう」

孔子がお弟子さんと雑談をしている場面です。孔子が、私はどうも世の中に受け入れてもらえないようだねえと言っていますから、かなり後半生です。半分以上冗談で喋っていると思います。

子路は、最初の頃はならず者というイメージがありますが、後半は知識・見識・胆識を十分備えた豪勇の人物、そして実際に高官のポストにも就きましたから、それなりの人物になりました。子路は心底孔子に惚れ込んでいるから、それを聞いて、先生の後を喜んでついて行くと言ったのでしょう。

続けて孔子が言いました。「お前の勇敢なことは私以上だ。しかし、筏を作る材木を何処から見つけてくるのだ。お前にそれが出来るのかね」・・・後先考えず蛮勇を揮うものではないぞ、という皮肉が入っています。

ここは、孔子と子路の問答を、傍で大勢のお弟子さんたちが面白いやり取りするものだと思って聞いている場面と捉えればよろしいでしょう。

余談ですが、先週の東京フォーラムで「漢字はどう読んでも良いのでしょうか。読み方を変えると、微妙に内容が変わるように思うのですが・・・」という質問を戴きました。

私は、「漢字は読みたいように読めばよい」と申し上げました。もともと漢字は中国語です。中国語が日本に入って来た当時、何と読めば分からないわけですからバラバラに好き勝手に読んでいたものを、学者の人たちが意見を闘わせながら日本流に読み解いた結果、だんだん日本語の読み方になっていったわけです。日本人はひらがなやカタカナを発明した人種ですから、どんどん工夫を重ねていく中で、学者の人たちは自分で調べた学説を打ち立てて読み替えるわけです。結果として、読み方が何通りも生まれてきました。ですから読み方がたくさんあるのです。

日本人は中国から伝わってきた中国文字を、日本流にかみ砕いて理解し、納得をした。これを和魂洋才（日本人の心を持って外国の才能・技芸を吸収していく）と言います。日本文化がどのように外国の文化を吸収し、日本流に噛み砕いて消化していったか・・・こういうことを外国の方に説明する時には、今申し上げた説明の仕方が一番通じます。歴史をみても、外国の文字を日本流に取り入れたと同じく、外国の文化を咀嚼して日本の文化として確立していく。こういうことを文化として実行している国は、日本しかありません。韓国の人たちは韓国流にちょっと変わった文字を作りましたが、日本の咀嚼の仕方は根本から違います。ですから日本の文字を研究するということは、日本文化の土台を研究することになるとお考え下さい。

④子曰く、道しいわに志みちし、徳こころざに據とくり、仁よに依じんり、藝よに遊げいぶ。 (述而第七・6)

「道」とは、人としてなすべき道と捉えます。

人としてなすべき道を身に付けたいと思う。それを日々実行していけば、徳（小さな悟り）を得ることが出来る。その徳を拠り所に歩んでゆけば、仁（完成した悟り）になる。悟りきったところで、遊戯三昧の境地に達する。

学問を身に付けたいと思えば、まず人の道を志し、徳を身に付け、仁人になり、最後は藝に遊ぶ所までいけば文句はない。私も遊戯三昧の境地まで行きたいものだと、孔子が暗に言っていると感じます。

次の憲問篇・38の文章は長いので、道に関する部分だけを抜き出しています。『素読論語』や他の解説本で確認して下さい。

⑤子曰く、道しいわの將みちに行まさわれんとするや、命おこななり。道めいの將みちに廢まされんとするや、命すたなり。  
公伯寮こうはくりょう 其それ命めいを如何いかにせんと。 (憲問第十四・38)

「命」とは天命です。

人の道が行なわれるのも天命と言えし、世の中が乱れ廃れてどうにもならなくなるのも天命である。公伯寮が、天命をどうすることは出来ない。

公伯寮が子路について季氏に讒言（告げ口）をしたので、魯の大夫の子服景伯が「公伯寮を懲らしめましょうか」と孔子に言ったところ、孔子が答えた言葉です。

告げ口をした公伯寮が討たれるのも天命だし、討たれないのも天命だ。人が手を加えるようなものではない。自然は淡々と流れていく。人の道も似たようなものだ。恣意的に物事を動かすものではない・・・というような会話をしていると捉えれば良いでしょう。

他の論語の章句で孔子は、「自分は天から命を受けて世の中を良くしようと努力している。そういう人間は天に守られているのだから、私はそう簡単に死にはしない。」とっています。

ですからここも、私は天命に従ってやっているのだから私のやる事は正しい、と暗に言っているようなものです。

天命ということで、余談を申します。「吾十有五にして学に志す」という有名な言葉があります。

**吾十有五にして学に志す**・・・十代で学問に志した。

**三十にして立つ**・・・結婚をし、家庭を持った。

**四十にして惑わず**・・・40 になったら、もう迷うことはなくなった。

**五十にして天命を知る**・・・50 になったら、自分はなぜこのように生まれたのか、自分のなすべきことは何なのか、それが天命によってはっと分かる時期である。

ところが今は、50代で天命を知ることなどないのではないかと感じる人が溢れています。なる程、洪澤栄一も「60 になって初めて、不惑の心境に達したように思う」と言っています。ですから孔子は大分先へ先へと走っている人なのだという気がします。

**六十にして耳従う**・・・60 になって初めて、人の言うことが良いことも悪いことも素直に入ってくるようになった。

**七十にして心の欲する所に従えども矩を踰えず**・・・矩は世の中ルールです。70代になって初めて、やりたいことをやりたいようにやって道を踏み外すことがなくなった。

そうは言っても先ほどの後期高齢者の話がありますね。後期高齢者は車を運転しないようにしないようにと誘導していますが、アクセルとブレーキを踏み間違えた結果、矩を踰

えてしまうことが今はあるわけで、孔子の言う科白もなかなか伝わらなくなっている時代だとは思いますが。

この章句では70代が最後ですが、80代・90代の気持ちはどういうものかという質問を結構受けました。色々な答え方をしておりますが、先ほどの「遊戯三昧」の境地も一つだと思います。

天命を受けて、日々、人としてなすべき道を実行している者は、そうそう交通事故にも遭わないし、況んや殺される事もない・・・と捉えます。しかし今の時代、現実は大いぶ違えますね。

⑥子 曰く、君子は道はかを謀りて食しょくを謀らず。耕たがやすや餒うえ 其の中に在り。学まなぶや禄ろく 其の中に在り。君子は道はかを憂えて、貧ひんを憂えず。 (衛霊公第十五・31)

素晴らしい人物は人としての道を一生懸命学び、実行しようと努力する。心を磨くことをしているのであって、食を得ようとはしない。

耕作をする場合も、凶作で飢えることもあると考えて耕している。

学問をする場合も、一生懸命学んでいれば知らず知らずの間に職につき、収入を得られるものだ。

人物は人としての道が世の中に広まらないことを憂えるのであって、自分が貧しいことを憂えたりしない。

この章句も、粗衣粗食を恥じない顔回のことを言っているとお考えください。顔回について書いてある文章は、論語の中に結構あります。

ここで考えるべきことは、学ぶことの大切さをよくよく味わった方が良いということです。

「耕すや餒其の中にあり」という部分で申し上げます。これから、飢えるという事が当たり前になると思っています。私が「これから世の中が悪くなる」「食べ物がなくなるから、自給自足が必要」と言い出したのは、10年ぐらい前だと思います。だんだん世の中がそういう方向に向かってきて、食べ物がなくなるという話をメディアが言うようになりました。昔言っていたことが、今は常識になったと思っています。凶作はいつの世でもある、とお考え下さい。

⑦子 曰く、道みち 同おなじからざれば、相あい 為ために謀らず。 (衛霊公第十五・39)

同じ学問の同志であれば、自分が疑問に思うことについて色々議論し合って、お互いに学び合うことができる。しかし、まるで違う学問では、なかなか通じないものだ。

論語の場合も朱子学と陽明学がありますから、片や朱子学を主張し、片や陽明学を主張してやり合ってもなかなか交わらない、そう受け止めて良いでしょう。

歴史的に見ても、キリスト教では陽明学は素晴らしいと言う人が多いようです。というのも、敬天愛人の考え方はキリスト教の教義そのものではないか、とキリスト教では説明しています。西郷隆盛の陽明学は敬天愛人だからキリスト教である、という学者の方もいます。同じ学問だとか土壌が同じだと思うと、お互いにスーッと理解が早まると思ってよろしいでしょう。

⑧ りゅう かけい しし な み しりぞ 柳下恵 士師と為りて三たび黜けらる。 ひと いわ し いま もつ さ 人 曰く、子 未だ以て去るべからざるか  
いわ みち なお と。曰く、道みちを直くして人ひとに事つかえば、焉いづくに往くとしてか三たび黜ゆけられざらん。道みちを枉ま  
ひと つか なん かなら ふ ぼ くに さ げて人ひとに事つかえば、何ぞ必なんずしも父母かならの邦ふを去ぼらんと。(微子第十八・2)

先程素読をする際に「士」「師」と分けて読んだ所を、「士師」と続けて読み直しました。お手持ちの『素読論語』を見ると、所々文字と文字の間が空いています。これは読む時に自然と区切って読めるように工夫を凝らした跡です。というのは、原文は全部繋がっているから、息をつぐ所がどこだか分からない。そこで私は意識的に一文字空けたり、半文字空けて、それによって自然と読めるように工夫を凝らしました。

士は司法官、師は長です。つまり司法官長という意味ですから、ここは繋げて読んでも良いと判断したわけです。「三たび」は、何度もと捉えれば良いでしょう。

柳下恵は魯の国の司法長官に任命されたけれども、(自分の考え方を曲げないものだから)何度も左遷されました。

ある人が聞きました。「なぜ他の国に行かないのか。あなたの実力を持ってすれば他の国でも歓迎されるのではないか。」

柳下恵が答えました。「自分の信ずる道を曲げずに仕官すれば、どこの国に行っても何度も左遷されるでしょう。道を曲げて主君に仕えるのであれば、故郷を去る必要はないでしょう。」・・・主君は棚に上げて父母の国にいる、と答えたわけです。

時事評論も含めて解説致します。

自分の信ずる道をまっすぐ貫く、左遷されても両親の国だから他国には行かない・・・節を曲げないということですが、柳下恵のような人物はいるでしょうか。政治家で見ると、選挙で何度も落選するのは嫌だから、当選した暁にはこれをします・あれをしますと色々な公約をして、政界に入る。政界に入ると、先輩議員から「そんなことやっていたら政治家としてまっとう出来ないぞ」と言われれば、コロッと主義主張を変える。そういう政治家がいかに多いかと感じます。

他国には行かず両親の国にいるという部分で、ビジネスに携わる人で見ると、税金を払うのは嫌だから外国に行く、という人が嘗てはいました。最近では、同じ仕事をするなら外国の方が何倍も稼げるという理由で、外国に出稼ぎに行く人がどんどん増えてきました。人口減は少子高齢化だけではありません。両親の国だから留まるという人がいなくなってきたわけです。これはアメリカが進めたグローバル化が世界全体に広がった結果であり、祖国を棄てるのは当たり前という世の中になってきたと感じます。

そういう中で、中国はまた違った動きをしました。もし中国が他国と戦争をする状況になった場合、その国に住んでいる中国人は武器を持って戦いなさい、戦わなければ中国の法律によって罰する、という法律を作りました。ということは、日本に住んでいる中国人は、中国と日本が戦争を始めた場合、すかさず武器を持って日本を攻撃しなさいという話になります。

もう一つ、日本の国は外国人が土地を買いたいと言ったら、ほんの少しだけ制約があります。例えば、軍事基地周辺ほんの少しの土地は売らないことになっています。しかし今は、もう野放図に外国人が日本の土地を買って漁っています。北海道の原野や水源を買って占めたという話が出て来ますし、島もそうです。先日も沖縄の無人島のうち半分を中国の企業が買ったという記事が出ていました。それら日本の島々に自衛隊がどれぐらい駐留しているかという、数百人程度しかいません。1000人を超えるのはほんのわずかです。ということは、日本有事が起きた時には簡単に占領されてしまうような島が、沖縄をひっくるめて多数あります。

中国人の方で親しい人がいたら、今の話を確認してみてください。その方が、「有事になったとしても、自分の信念として私は日本を攻撃しない」と言ったとしたら、それを祖国（中国）に向けて発表できますか？と聞いてみてください。おそらく、「そんな事は出来るわけがない」と答えるでしょう。それほど今は、物騒な世の中になっています。



## 恒例の質問

では、恒例の質問を致しましょう。

- 今年に入って、良い日が続いていると思う方
- 今年に入って、嘘をつかれていないし、嘘をついてもいない方

今日、この後の次世代経営者の勉強会で、「嘘」についてお話をすることになっています。少し申し上げますと、「嘘」というキーワードで、こう考えました。

何か失敗をしたり、まずい事になった場合、嘘をついて誤魔化そうとしますね。誤魔化すという感覚が、嘘の最初です。「嘘つきは泥棒の始まり」という言葉があります。その先に来るのは、人を騙すということです。騙すというのは、嘘をついて騙すのです。では、騙されないためにはどうしたらよいか、嘘をどうやって見抜けばよいのか、そんな話を次世代の勉強会で申し上げようと思っています。

- 今年に入って、有難うと言うことが多かったし、言われることも多かった方
  - 今年に入って、身体の手入れをよくやっている方
  - 今年に入って、自分磨きをよくやっている方
  - 昨晚眠る時に、明日以降の未来を過去形で考えて寝た方
- 一人手が挙がりました。木村さん、お話出来ますか？

(木村会員) 塾長のおかげで体調も非常に良くなりました。そして仕事にも集中出来るようになりました。これから仕事でやりたい事が沢山あって、昨日は寝る前に、そうなった自分を夢見て眠りました。よく眠れました。

はい、有難うございました。結構な事ですね。未来の自分を過去形で見られるというのは良いなと思います。ドラえもんの世界でしょうか。

## 時事評論 — 令和5年を考える —

### 繁栄か没落、岐路の年

今年に分かれ道です。これから日本は食べ物がなくなるとずっと言い続けていますが、どんどん良くなっていくのか悪くなっていくのか、それがくっきり見える年です。

戦争が起きるのか起きないのか、どちらの方向に行くのだと自分なりに納得の出来る年です。戦争がこれから起きるか起きないか判断する年ですから、今年には戦争は起きません。ただ、中国の気球に関してアメリカが余計なことしましたから、アクシデントが続いて起きる可能性もあるけれども、普通にいけば起きない。次年度以降ということになります。

### コロナは死亡しないことが肝心

レジュメに付けた表「コロナ死亡者数」を見て戴くと、初年度は 3492 人が死亡しました。次の年は 1 万 4901 人、3 年目が 3 万 9141 人が亡くなっています。年が明けて今年 1 ヶ月間で 1 万 1071 名が亡くなった。どこが下火なのでしょう。政府は嘘をついていると私は思っています。

なぜならば今、感染者はどんどん増えています。これは、増やしているように私には見えます。政府は感染者をどんどん増やして、致死率を落としたと思っています。たくさん感染者が増えのだから、死亡者が増えても目くらましをかけられるわけです。

確かに今月は死亡者が減りました。今日の新聞を見ると 2 月に入って 3022 名が亡くなっています。ただ、新聞等では累計しか出しません。毎年、死亡者が何名かという数字は出てきません。もう誤魔化しに入っているから、そういう発表状況だと思っています。

いずれにしてもコロナの死亡者は増えているから、我々は死なないように努力しましょう。そのためには、「よく食べ・よく寝て・よく動け」です。マスクをしようがしまいが関係ないと私は思っています。ワクチンも打とうが打つまいが関係ない。ただ言えることは、これから報道がコロナに罹って死ぬ人とワクチンを打って死ぬ人の両睨みに変わってくると思っています。

### 今年は騙されないように

世の中、嘘だらけ。メディアは嘘だらけです。以前、新聞はヒントが詰まっているからヒントを見つけましょうと言いました。現時点で言う事は、新聞は嘘だらけ、嘘のつきっ放しということです。

はっきり分かることは、フェイクニュースを流して何処かに誘導しようとしている人たちがいるということです。怖いのは、メディアも知らない間に騙されてフェイクニュースを流すように、今はなってしまうかもしれません。もう過去形です。

ですから新聞を見たら、書かれているものは全部嘘だと思って読むことです。嘘だと思った中で、これはどうも事実ではないか、そう思って新聞を見る必要があると存じます。

例えば、中国の気球についての記事が次から次に新聞に出ています。これは、中国が悪いやつだということを植え付けるために、欧米側のニュースがどんどん日本に送られて来て、それをメディアは何か不思議に思いつつも流しているという状態です。

先日ある講演会で、軍事問題の研究家の人たちの話を聞きました。軍事問題を専門に研究する大学の名誉教授や、政治家もいました。その方たちとのディスカッションの中でお聞きした話をご紹介しますと、日本有事を起こさせて戦争ビジネスで稼ごうとする人たちが、今、相当仕掛けをしている。それに対して投資ファンドが莫大な金をつぎ込んで投資をし

ている。日本有事、台湾有事が起きた時には、凄まじいリターンで投資ファンドが儲けを重ねる。そういう勢力が気球を撃墜させるように動いて、実際に撃墜させた。撃墜された気球も、中国にするとだまし討ちにあったようなものだから、中国が今、逆襲を仕掛けている・・・といった話がありました。

私がお話するのは、自分が勝手に想像した話ではありません。必ず裏付けがあったもの、尚且つ自分なりに納得した話をご紹介します。

以上で、本日の講話を終了致します。有難うございました。